

島原ミレット生産組合の活動状況について

島原ミレット生産組合事務局 前田 豊子

南島原市（旧深江町・有家町）では、古くより雑穀（きび・あわ）栽培が盛んでありました。砂壤土で水はけがよく畑作には最適であり、また温暖な気候であることから短期間で栽培できる雑穀には適した産地と言えます。現在では、葉タバコの後作として大規模に生産されております。平成20年産は、台風等の影響もなく平年作となり、生産された数量は、90戸の組合員でもちきび75t、もち粟60tでした。

近年の消費者の健康志向の高まりで雑穀が見直されておりますが、様々な食品関連の事件が多発する中で、安全安心な国産農産物が要望されております。雑穀栽培は、天候に左右され安定供給が難しい穀物です。さらに、栽培技術が確立されていなく、品種改良もされていないことから生産者の負担は想像する以上にあります。そのような問題を産地の問題としてとらえ、改善する必要があると考え、5年ほど前にミレット組合を設立しました。

ミレット生産組合の主な仕事は、1) 生産者名簿の作成 2) 各生産者の栽培計画書の作成依頼 3) 種子管理・配布 4) 生産物の集荷 5) 組合独自の等級基準に基づいた生産物の品質検査 6) 実需者の産地視察依頼の対応 7) 生産者会議の開催等です。生産者会議は、播種前と収穫後の年2回開催しております。播種前（播種時期は8月上旬）の生産者会議では、実需者との数量契約を播種前に行っているため、その年の必要生産数量を全組合員で認識することが可能です。また、その席で種子更新の依頼を求めます。収穫後の生産者会議では、その年の集荷実績をもとに反収及び品質について話し合います。

ミレット生産組合を設立し、上記のような活動をしたことによって、生産者が雑穀栽培に意欲を持って取り組むことができるようになったと思われま

す。特に、実需者の産地視察では、実需者の意見を聞くことができ、自分たちが丹精込めて栽培したもちきび・もち粟がどのように流通加工され消費されるかが把握できるようになりました。実需者の殆どの方が、雑穀を畑で見たのは初めてとのことで、生産者自らが栽培概要・雑穀栽培で注意している点（播種時期・収穫適期の見極め・収穫後の調整等）を詳しく説明することによってより深く理解され安心して頂いております。このような、産地視察のご依頼は年々多くなってきております。

今後についてミレット生産組合としては、南島原産のもちきび・もち粟のブランドを確立するために、栽培技術を長崎県のご協力を頂きながら確立させ、実需者が要望されるより高品質な雑穀の安定供給をめざして参りたいと思います。また現在海外でしか栽培されておらず、輸入品しか市場に存在しない様々な畑作の作物を試験栽培してみたいと思います。さらには、地元の食品メーカー様等と協力して、もちきび・もち粟を原料とした加工食品を開発したいとも考えております。生産者が、永続的に収入の安定を確保できるような仕組み作りをして、農業という職業に対して面白みを感じて頂き、やりがいを持つことできるようにしてゆきたいと思っております。



アワの商品包装（（株）森光商店提供）